

e-mail: jpstokyo-office@umin.ac.jp

第 606 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内、厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:35

座長 佐藤 詩子 (東京日立病院小児科)

1) 母体吸収障害を契機に発症したビタミン B₁₂ 欠乏性巨赤芽球性貧血の 1 例

○岩橋めぐみ、稲毛 由佳、山岡 正慶、大山 亘、横井健太郎、秋山 政晴、井田 博幸
(東京慈恵会医科大学小児科)

ビタミン B₁₂ 欠乏は DNA 合成障害を引き起こし、小児では、貧血だけでなく精神運動発達遅延がみられることがある。今回、傾眠、発達障害、脳萎縮、貧血を呈したビタミン B₁₂ 欠乏性巨赤芽球性貧血をきたした 11 か月男児の 1 例を経験した。治療により貧血また発達遅延の改善も認め、母体の吸収障害が原因であったと考察されたため報告する。

2) Basedow 病の母から出生し、新生児一過性甲状腺機能亢進症を呈した 1 例

○山田隆太郎、桑原 怜未、森内 優子、片渕 悠乃、小川えりか、羽生 政子、奥野美佐子、石毛 美夏、森本 哲司、高橋 昌里
(日本大学小児科)

症例は日齢 5 に産科を退院後、日齢 8 に当科を再診したところ甲状腺ホルモンの高値を指摘され、当科へ入院した。症例の母親は Basedow 病に対し抗甲状腺薬を投与中で、妊娠 28 週の TSH 受容体抗体は 59.4 % (N ≤ 10%) であった。母親は児のリスクに対する理解が不十分で、動揺がみられた。円滑な周産期医療を行うため、内科—産科—小児科の連携が必要である。

指定発言 浦上 達彦 (駿河台日本大学小児科)

3) 多発関節痛及び多発黄色腫を契機に発見された、シトステロール血症の 1 例

○佐藤 友香、鈴木 絵理、池上 千晶、塚越 麗、清水真理子、三島 芳紀、佐藤利永子、後藤 正之、篠原 尚美、後藤 美和、有馬ふじ代、土橋 隆俊、興石 薫、込山 修
(独立行政法人国立病院機構東京医療センター小児科)

症例は 6 歳女児。生後 5 ヶ月に手関節に黄色の腫瘍が出現。以後、腫瘍は増大傾向、増加傾向だった。6 歳時に多発関節痛が出現し当院を受診。初診時に総コレステロールの高値と、血清シトステロールの高値を認め、シトステロール血症と診断した。現在は食事療法とコレステミド、エゼチミブで加療中である。本例について文献的考察も加え報告する。

第 2 グループ 14:35—15:15

座長 黒澤 照喜 (さいわいこどもクリニック)

4) 迅速な対応により救命しえた咽後膿瘍の 1 例

○金 尚英、米沢 龍太、土方みどり、河村 研吾、林 利佳、稲毛 康司、高橋 昌里
(日本大学板橋病院小児科)

1 歳 5 か月女児。入院 4 日前から発熱、入院当日に左頸部腫脹が出現した。頸部造影 CT 所見から咽後膿瘍と診断し入院した。上気道狭窄を認め、挿管し入院翌日に切開排膿を行った。膿瘍から *Streptococcus.intermedius* が検出された。咽後膿瘍はしばしば迅速な対応が要求される気道緊急であり、文献的考察を加え報告する。

5) 重症ヒトパレコウイルス感染症における急性期症状

○井上 健斗、伊藤友理枝、佐々木隆司、辻 聡

(国立成育医療研究センター総合診療部救急診療科)

ヒトパレコウイルス (HPeV) は、新生児において敗血症様症状や髄膜炎等を来し、重症化する。今回、腹部膨満、呻吟、無呼吸発作といったそれぞれ異なる敗血症様症状で来院したが、共通点として輸液負荷に反応が乏しい代償性ショックを認めた重症 HPeV 感染症を 3 例経験した。それぞれの急性期の症状の特徴を比較し報告する。

指定発言 船木 孝則 (国立成育医療研究センター感染症科)

6) 特徴的身体所見が診断の一助となった特発性縦隔気腫の 1 例

○大野 香奈¹⁾、武田 武文¹⁾、小澤香菜子¹⁾、石田明日香¹⁾、稲毛 英介¹⁾、小野 裕子¹⁾、
神保 圭佑¹⁾、齋藤 俊¹⁾、吉田 志帆³⁾、茅野 新³⁾、山高 篤行³⁾、清水 俊明²⁾

(東部地域病院小児科)¹⁾、(順天堂大学小児科)²⁾、(同 小児外科)³⁾

15 歳男児。受診当日からの胸痛を主訴に夜間来院。診察上 Hamman 徴候を認め胸部レントゲンおよび CT を施行。広範囲の縦隔気腫と診断し高次機能病院小児外科に転院搬送した。縦隔気腫は外傷や手術、呼吸器疾患に続発する場合が多い。今回明らかな誘因なく急激に発症した特発性縦隔気腫を経験し、特徴的身体所見を認めたため文献の考察を含め報告する。

指定発言 古賀 寛之 (順天堂大学小児外科)

休 憩 15:15—15:25

感染症だより 15:25—15:45 (講演:15分+質疑応答:5分)

座長 岩田 敏 (慶應義塾大学感染制御センター)

多屋 馨子 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

教育講演 15:45—16:30 (講演:40分+質疑応答:5分)

座長 大塚 宜一 (順天堂大学)

新生児聴覚スクリーニングによる難聴児の医療の進歩

—海外の現状紹介および人工内耳手術の成果について—

加我 君孝 (独立行政法人国立病院機構 東京医療センター臨床研究センター)

先天性難聴は早期発見・早期教育がその後の言語発達のために必要であるが、歴史的にその方法について問題があった。新生児聴覚スクリーニングとは、全出生児を対象に難聴の有無をチェックするシステムである。難聴が疑われる場合、耳鼻咽喉科の精密聴力検査機関に紹介し、難聴の早期診断が行われる。6ヶ月以前に補聴器装着下に教育を開始することが目標となっている。良い成果が上がり、人工内耳手術の早期化をもたらした。しかし、全国的な視野で考えると、スクリーニングの実施率は 60 %程度にすぎない。海外の取り組みも紹介する。

第 3 グループ 16:30—17:05

座長 古山 晶子 (心身障害児総合療育医療センター小児科)

7) 生後早期に横紋筋融解症をきたしたダウン症候群合併 Duchenne 型筋ジストロフィーの 1 例

○畠中 大輔¹⁾、草薙 倫子¹⁾、中村 利彦¹⁾、蒲原 孝¹⁾、梶 敏彦²⁾、埜中 征哉³⁾

(武蔵野赤十字病院新生児科)¹⁾、(同 小児科)²⁾、

(国立精神・神経医療研究センター病院小児神経科)³⁾

症例は日齢 0 の男児。ダウン症に伴う肺高血圧の精査目的で入院。生後早期の高 CK 血症、高ミオグロビン (Mb) 血症から横紋筋融解症と診断した。その後、持続する高 CK 血症、高 Mb 血症より筋ジストロフィーを疑って、遺伝子解析の結果 Duchenne 型筋ジストロフィーと診断した。これらの合併は極めてまれであるため報告する。

8) 急性の転帰で脳死に至り、終末期を在宅で過ごした小児の1例

○加藤 弘規¹⁾、王 志超¹⁾、大熊 喜彰¹⁾、佐藤 理²⁾、宮原 牧子²⁾、岡本幸一郎²⁾、
石崎 淳朗³⁾、佐藤 典子¹⁾、松下 竹次¹⁾
(国立国際医療研究センター小児科)¹⁾、(同 脳神経外科)²⁾、(たけうち内科)³⁾

生来健康な6歳男児。痙攣を主訴に救急受診し、脳動静脈奇形による頭蓋内出血と診断し加療したが、
受診32時間後に脳死状態になった。家族が終末期を自宅で過ごすことを選択したため、積極的な加療
を差し控え、社会背景に合わせた在宅医療を立ち上げて、自宅で看取りを行った。このような急性の転
帰に対する、当科での取り組みを報告する。

指定発言 竹内 明彦 (たけうち内科)

9) RS ウイルス感染に伴う心肺停止蘇生後に脳低体温療法を施行した新生児の1例

○林 健一郎¹⁾、張田 豊¹⁾、三浦健一郎¹⁾、磯島 豪¹⁾、安戸 裕貴¹⁾、太田さやか¹⁾、
下田木の実¹⁾、高橋 長久¹⁾、岩崎 博之¹⁾、三牧 正和¹⁾、岡 明¹⁾、新橋 玲子²⁾、
新妻 隆広²⁾ (東京大学小児科)¹⁾、(東京臨海病院小児科)²⁾

症例は日齢15の新生児。感冒症状で前医にて診察中に心肺停止となり、約1時間後に心拍再開した
もののけいれんが出現した。RS ウイルス抗原検査陽性であった。当院転院後、脳低体温療法を含めた
全身管理を施行し、入院9日目に人工呼吸器から離脱した。MRI で低酸素脳症の所見が得られている。
考察を加えて経過を報告する。

第4グループ 17:05—17:30

座長 加藤 元博 (東京大学小児科)

10) 重症肺炎後仮性脾嚢胞に対し内視鏡的内ドレナージが有効であった1例

○萩原 友紀、藤村 純也、坂口 佐知、玉一 博之、山田 浩之、斉藤 洋平、寺尾梨江子、
高田 オト、齋藤 正博、清水 俊明 (順天堂大学 小児科)

急性リンパ性白血病の5歳男児。アスパラギナーゼを含む寛解導入療法終了直後に壊死性肺炎を発症
し、その後仮性脾嚢胞の形成を認めた。保存的治療を行うも嚢胞の増大が続き、肺炎発症から10週間
後に内視鏡的経胃内ドレナージ術を施行した。ドレナージ術により嚢胞は縮小し、白血病に対する治療
も継続可能であった。文献的考察を含め報告する。

11) 小児特発性大網梗塞の1例

○新井 法子、三井 元子、平井 聖子、大井田憲泰、小野沙裕子、山下 匠、山下 基、
二川 弘司、勝見麻里子、田川 雅子、中島 園子、峯 佑介、西口 康介、玉木 久光、
大森 多恵、伊藤 昌弘、三澤 正弘、大塚 正弘 (東京都立墨東病院 小児科)

8歳女児。臍部痛で発症し、近医で施行した腹部超音波にて腫瘤影を認め、当科紹介受診した。当院
での腹部超音波および腹部造影CT 所見より大網梗塞と診断し、保存的治療で軽快した。本邦における
小児例の報告は少ないが、小児の腹痛の鑑別として考慮すべきであり、適切な画像診断により侵襲的検
査・治療を回避できる疾患であるため報告する。

指定発言 河野 達夫 (東京都立小児総合医療センター)

【運営委員会だより】

1. 平成 26 年 1 月からのプログラム委員は東京大学小児科の三牧正和先生がご担当されます。
2. 平成 26 年 1 月講話会（第606回）のプログラム編成について東京大学小児科の三牧正和先生より説明がありました。
3. 講話会の指定発言の内容に関して意見交換が行われました。指定発言では、おもに発表症例の医学的な知見について言及していただき、演者ご自身の施設の宣伝等は控えてもらうことで意見が一致しました。
4. 名誉会員と幹事の兼任の是非や幹事定年制に関しては、各学会の会則を参考にして検討することになりました。
5. 第 40 回東日本小児科学会会長は東京医科大学小児科の河島尚志先生に内定しております。
6. 12 月の講話会出席者は 351 名、新入会者 6 名、退会者 0 名、ベビーシッタールーム利用者は 3 名でした。

【演題の申し込みについてのお願い】

- ・ 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。動画使用の場合には、具体的な注意事項を、折り返し事務局よりご連絡いたします。
- ・ 原則として指定発言をつけて下さい。
- ・ 演題の締切は次のようになります。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
1 月	前年 11 月 30 日	2 月	前年 12 月 25 日	3 月	1 月 31 日
5 月	2 月 28 日	6 月	4 月 30 日	7 月	5 月 31 日
9 月	6 月 30 日	10 月	8 月 31 日	12 月	9 月 30 日

申込演題が 12 題以上になった場合、さらに 1 回先になることがありますのでご了承ください。
その場合、事務局よりご連絡します。

【演者の先生方へのお願い】

- ・ 一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださるようお願いいたします。（原稿はワード入力にてe-mailにて事務局へお送り下さい。）
- ・ 出席した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後（または適切な時期）にTake Home Message（この発表から学ぶこと）を手短な一文で記したスライドを付け加えていただくようお願いいたします。

【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- ・ 自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- ・ 退会される場合も必ずご連絡下さい。そのお届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

東京都地方会事務局 e-mail：jpstokyo-office@umin.ac.jp／FAX：03（5388）5193

【事務局からの連絡】

- ・ 第 606 回講話会（平成 26 年 1 月 11 日）は東京慈恵会医科大学中央講堂にて開催予定です。

Presentation について

発表は Computer Presentation (Windows) のみで受け付けます。Powerpoint 2000 以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-R もしくは USB メモリーにて、第 1、2 グループ発表者は午後 1 時 30 分までに、第 3 グループ以降の発表者は午後 3 時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルス check をお願いいたします。

動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

- ① 一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようお願い致します。
- ② 動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡ください。
- ③ ②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承下さい。

〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の 1 週間前までに事務局へお申し込み下さい。申し込みの際、お預けになるお子様の氏名・年齢・性別・および預けられる時間帯を伺います。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。また申し込み受付後、問診票に記載していただきますことをご了承下さい。キャンセルされる場合は、3 日前までにご連絡をお願いします。なお費用は学会が負担いたします。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193

WAKODO



わこちゃん

小児医療・育児関連専門職の方のための

育児情報サイト OPEN

和光堂ホームページに「小児医療・育児関連専門職情報サイト」をオープンしました。
育児支援や指導用にご利用いただける情報を掲載しています。

和光堂トップページから

「小児医療・育児専門職情報サイト」をクリック。

専用サイトをぜひご利用ください。

和光堂

検索

www.wakodo.co.jp

和光堂トップページ



クリック

小児医療・育児関連専門職の方の情報サイト

小児医療・育児関連専門職の方のために、役立つ情報を提供しております。

育児指導用
パンフレット

育児指導等にご利用いただける情報を掲載しています。プリントアウトしてお母様へお渡しいただくこともできます。

パンフレットはこちら →

ベビーケアレポート
(専門情報)

ベビーケアレポートは小児科の先生方や育児関連専門職の皆さんにお読みいただきたいレポートです。

レポートはこちら →

ミルク・ベビーフード等の
サンプル請求

ミルク・ベビーフード等のサンプルをご用意しております。ご入用の際はこちらからお申し込みください。

サンプルはこちら →

ミルク・ベビーフード等のサンプル請求も情報サイトからお申し込みいただけます。

和光堂株式会社

お客様相談室 ☎ 0120-88-9283 受付時間 9:00~17:00(土日・祝日を除く)

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-14-3